

1 令和元年度東京都自立支援協議会活動状況

第6期 東京都自立支援協議会委員名簿(令和元年度)

平成31年4月1日～令和2年3月31日

番号	名前	所属
会長	1 安達 勇二	文京区障害者基幹相談支援センター 所長
	2 岩本 操	武蔵野大学 人間科学部人間科学科 教授
	3 小倉 千明	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 本人部会代表
	4 鬼丸 功	練馬区福祉部大泉総合福祉事務所 知的障害者担当係長
	5 金川 洋輔	地域生活支援センター サポートセンターきぬた 地域移行コーディネーター
副会長	6 金澤 正義	社会福祉法人武蔵野会 東堀切くすのき園 施設長
副会長	7 川上 鉄夫	葛飾区福祉部 障害福祉課長
8 九鬼 統一郎	狛江市福祉保健部福祉相談課 相談支援係長	
9 小池 育英	八王子市福祉部 障害者福祉課長	
10 小阪 和誠	一般社団法人ソラティオ ピアサポート専門員	

番号	名前	所属
副会長	11 清家 政江	社会福祉法人JHC板橋会 障害者就業・生活支援センター ワーキング・トライ センター長
	12 曾田 夏記	特定非営利活動法人自立生活センターSTEPえどがわ 特定非営利活動法人DPI日本会議特別常任委員
	13 高木 仁根	大田区福祉部調布地域福祉課 障害者地域支援担当係長
	14 富高 陽子	中野区地域支えあい推進部 北部すこやか福祉センター 保健福祉包括ケア係長
	15 西田 伸一	公益社団法人東京都医師会 理事
	16 平井 寛	社会福祉法人東京緑新会 多摩療護園 園長
	17 藤井 亘	特定非営利活動法人クローバー 事務局長
	18 森山 瑞江	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 副理事長
	19 八木 良次	障害者施策推進部 地域生活支援課長

※ 五十音順

令和元年度 東京都自立支援協議会 活動のまとめ

第6期テーマ(令和元・2年度)： 都と地域の協議会活動における情報共有を促進し、当事者とともに東京の協議会活動を活性化させる

協議事項に基づく検討 「当事者の声を反映させた協議会活動を考える」

第1回本会議 5月27日(月)13時30分から16時30分まで
<報告・情報提供事項>
 (1) 平成30年度東京都自立支援協議会活動のまとめ
 (2) 「平成30年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査結果について
 (3) 医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置状況について
 (4) 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に向けた保健、医療、福祉関係者の協議の場の設置状況について
<協議事項>
 (1) 第6期東京都自立支援協議会の活動方針及び令和元年度協議事項について
 (2) 令和元年度東京都自立支援協議会活動計画について
<グループ討議>
 令和元年度東京都自立支援協議会活動計画について
<全体討議>
 (1) 令和元年度東京都自立支援協議会活動計画について
 (2) 地域自立支援協議会や日々の活動等で感じる地域課題等について
<連絡事項>

以下のとおり開催予定だったが、中止 ※委員へは資料配布
 第2回本会議 2月26日(水)13時30分から16時30分まで
<報告・情報提供事項>
 第九期東京都障害者施策推進協議会について
<協議事項>
 (1) 「令和元年度版 東京都内の自立支援協議会の動向」調査票(案)について
 (2) 令和元年度東京都自立支援協議会活動のまとめについて
<グループ討議>
 令和2年度東京都自立支援協議会活動に向けて
<全体討議>
 (1) 令和2年度東京都自立支援協議会活動に向けて
 (2) 地域自立支援協議会や日々の活動等で感じる地域課題等について
<連絡事項>

地域協議会の情報把握・共有

地域自立支援協議会交流会
 日時：9月2日(月)13時30分から17時まで
 会場：東京都社会福祉保健医療研修センター

どうすれば、私たちは「声なき声」をきけるか
 ～みんなで考え、良い事例を共有しよう～

<グループ討議テーマ>

- ①当事者の委員が参加しやすくなるために取り組んでいることや課題
- ②地域で生活する当事者の声を吸いあげるために取り組んでいることや課題

東京の協議会活動の普及啓発

東京都自立支援協議会セミナー
 日時：1月20日(月)13時20分から16時40分まで
 会場：東京都社会福祉保健医療研修センター

障害のある人とつくる「みんなが暮らしやすい社会」
 ～「わたしたち」の社会を豊かにするために～

基調講演 多様性を生きるわたしたち
 ～障害者のリアルに迫りながら～
 パネルディスカッション
 障害のある人のホンネ：「暮らしやすい社会」とは？
 ～いろんな視点から社会を見つめてみると～

地域協議会の情報共有・発信

平成30年度版
 東京都内の自立支援協議会の動向

調査項目、情報発信方法の検討

- ・地域自立支援協議会の様子がわかるよう具体的な取組を記述してもらう。
- ・各区市町村の地域自立支援協議会の活動状況を一覧にまとめ、動向集に掲載する。
- ・動向集と同内容をホームページに掲載する。

令和元年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

1 概要

目的: ①地域自立支援協議会関係者の交流の場を設定し、活動状況に関する情報交換を実施することにより、地域自立支援協議会の円滑な運営や活動の活性化を図る。
②東京都自立支援協議会として、地域自立支援協議会の活動状況を把握する。

日時: 令和元年9月2日(月曜日) 13時30分から17時まで

場所: 東京都社会福祉保健医療研修センター 502教室他

対象者: 地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員
東京都自立支援協議会委員・事務局関係者

周知方法: 各区市町村の地域自立支援協議会会長、主管課長宛てに通知を発送
各区市町村の地域自立支援協議会主管課へメール及び電話連絡

参加者数: 142名

- ・区市町村参加者 106名(16区19市2町)
- ・東京都自立支援協議会委員 17名
- ・都事務局関係者 19名

この他に、障害を有する方の支援者が13名参加

2 プログラム

テーマ どうすれば、私たちは「声なき声」をきけるか
～みんなで考え、良い事例を共有しよう～

ミニシンポジウム

今年度のテーマ選定理由

話題提供

<パネリスト>

○東京都自立支援協議会副会長 曾田 夏記 氏
(特定非営利活動法人自立生活センターSTEPえどがわ)

○武蔵野市地域自立支援協議会委員/障害当事者部会部会長 福田 暁子 氏

○東京都自立支援協議会委員 九鬼 統一郎 氏
(狛江市福祉保健部福祉相談課相談支援係長)

○東京都自立支援協議会会長 岩本 操 氏
(武蔵野大学人間科学部人間科学科教授)

グループ討議

(1) 他地域の自立支援協議会関係者で意見交換(12グループ)

- ・当事者の委員が参加しやすくなるために取り組んでいることや課題
- ・地域で生活する当事者の声を吸いあげるために取り組んでいることや課題

(2) 区市町村ごとで振り返り

- ・グループ討議(1)で意見交換した内容、取り入れたい取組や工夫を共有
- ・区市町村に戻って、まずできること(取り組むこと)を考える。

全体会

- (1) 区市町村からの発表
- (2) 東京都自立支援協議会会長によるまとめ

令和元年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

3 プログラム構成のねらい

(第1回本会議グループ討議及び実行委員による検討より)

1 交流会のテーマ設定理由

- 昨年度の交流会、セミナー等で、「当事者の声を直接聴く」ことの大切さに関する声が多数あった。
- そもそも、自立支援協議会委員に障害のある委員はいるのか、障害のある委員がいる場合も実質的な参加ができてきているのだろうか。
- 障害のある委員は、自立支援協議会で意見を伝えられているのだろうか。
- 地域にいる障害者の声は、自立支援協議会に届いているのだろうか。地域で生活する障害者の声を自立支援協議会に吸いあげるために、どのような工夫をすればいいのだろうか。
- 自立支援協議会に参加するために存在する、難しい資料や時間がない中での議論などの様々なバリアは、障害のあるなしに関わらず、全員にとってバリアがあるのではないだろうか。

2 交流会終了後の取組の促進

- グループ討議で意見交換したこと、自分の区市町村に取り入れたいと思った取組や工夫を共有し、地域に持ち帰って考える機会にする。
- 多様な意見やアイデアから、自分が活用できそうな「ヒント」を得て、地域の力で自分達らしい自立支援協議会、自分達らしい当事者との協働の形を作っていたかと良いのではないかと。

4 参加者アンケート

回答数: 79 (回収率: 74.5%)
回答は区市町村からの参加者のみ

ミニシンポジウム

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考になかった
29 (36.7%)	46 (58.2%)	3 (3.8%)	1 (1.3%)

グループ討議・全体会

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考になかった
28 (35.4%)	48 (60.8%)	3 (3.8%)	0 (0.0%)

<自由意見>

- 今回のテーマは当事者目線に立ったとても良いテーマだったと思う。
- ミニシンポジウムの内容は当事者、自治体の話が聞けて有益だった。
- ミニシンポジウムの後のグループ討議の形式はわかりやすく議論しやすいので良いと思う。ファシリテーターの方が上手にサポートしてくださり、他自治体の話が聞けて参考になった。
- 会の主旨や他区市町村との交流の時間など、都が窓口にならないと形にならないことをやっていることが素晴らしいと思う。
- ミニシンポジウムもグループ討議も時間が短すぎ。テーマに対して時間が短かったと思う。
- グループ討議の時間をもう少し取れば良いと思った。
- 午後だけでは時間が足りない。午前にパネルディスカッション、午後には交流など、このぐらいでやってほしい。

令和元年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

1 概要

目的：東京における共通課題や取組、自立支援協議会活動の活性化策などについて、本会議での検討等を踏まえた講演等を実施し、広く関係者へ情報発信を行い、自立支援協議会活動の普及啓発を図る。

日時：令和2年1月20日（月曜日）13時20分から16時40分まで

場所：東京都社会福祉保健医療研修センター 1階講堂

対象者：一般都民・障害当事者・家族、地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員、相談支援事業所等職員、障害者支援に携わる者、その他

広報：チラシの作成・配布（約4,800枚）
当センター、東京都障害者サービス情報ホームページへの掲載
区市町村主管課長会等での説明、周知依頼
「福祉保健」11月号掲載、区市町村広報誌等への掲載依頼

参加者数：215名

(1) 受講者 174名（申込者220名）
所属等別内訳（複数該当があるため、受講者数と一致しない。）

所属等	人数
障害当事者・家族	28名
相談支援事業所	58名
障害福祉サービス等事業所	42名
就労支援機関等	11名
医療機関	4名
入所施設等	8名
地域自立支援協議会委員等関係者	38名
民生委員・児童委員	6名
行政	38名
その他	11名

(2) 聴講者 41名

- ・東京都自立支援協議会委員
- ・東京都自立支援協議会連絡調整会議委員
- ・東京都心身障害者福祉センター職員
- ・東京都自立支援協議会委員及び登壇者の支援者

2 プログラム

**テーマ 障害のある人とつくる「みんなが暮らしやすい社会」
～「わたしたち」の社会を豊かにするために～**

第1部 多様性を生きているわたしたち ～障害者のリアルに迫りながら～

<講師>

野澤 和弘氏（植草学園大学客員教授、一般社団法人スローコミュニケーション代表、毎日新聞論説委員）

(概要)

多様化した社会の中での合理的配慮の意味や意義、バリアフリー化を進めた例、「障害者のリアルに迫る」というゼミでの学生の話等

- ・障害のある方や生きにくさを抱えた人達への合理的配慮は一般の人にもいい影響が広がる。
- ・障害者の特性に働きやすい環境をあわせることが一般の人にも広がり、働き方改革にもつながる。
- ・インクルーシブ教育を行う中でも、自閉症の子供などには細かい合理的配慮は必要
- ・「一般社団法人スローコミュニケーション」は知的障害のある方にわかりやすい情報を研究、開発する団体。多様性のある社会に通用するような文章表現を考えている。
- ・多様性というものが社会に求められており、障害のある方たちがそれを担っている。

第2部 障害のある人のホンネ：「暮らしやすい社会」とは？

～いろんな視点から社会を見つめてみると～

<パネリスト>

内布 智之氏（一般社団法人日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構 代表理事）
小倉 千明氏（東京都自立支援協議会委員、社会福祉法人東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 本人部会代表）

宮本 浩史氏（社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 立川福祉作業所 所長）

道見 美由紀氏

<コメンテーター>

野澤 和弘氏（植草学園大学客員教授、一般社団法人スローコミュニケーション代表、毎日新聞論説委員）

<コーディネーター>

(概要)

当事者及び支援者それぞれの立場から、「暮らしやすい社会」とは何か、日々の暮らしの中で感じていること、こうしてほしいと思っていることについて発表、ディスカッション

令和元年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

3 プログラム構成のねらい

(第1回本会議グループ討議及び実行委員による検討より)

テーマ設定理由

○今年度の協議事項「当事者の声を反映させた協議会活動を考える」に即して、当事者の方の声をしっかり受け止めていく。障害や難病のある方の声を率直に届けたい。

○うまくいく事例ばかりではない。頓挫していたり、なかなか地域で受け止めきれずに、病院に入ってしまったたりする方もいるので、そういう意味では、もう一歩、当事者性や支援のあり方というものを深められる企画ができれば良いのではないかな。

○障害当事者といっても、障害種別に関していうと多岐にわたる。また、発言時間も長めにした方がいい場合もあるので、2年間計画で考えてもいいのではないかな。

○ダイレクトに、本人の声に耳を傾けるということは支援者として当然必要。社会の側もそういうスタンスで臨まないといけないのではないかな。

○なかなかオープンに一般の人達に伝えきれていないところがあるのではないかな。できるだけ広く、いろいろな方に聞いてもらえるような情報発信のあり方とか、企画の切り口みたいなのは考えていってもいいのではないかな。

○「共生社会の実現」と言われているが、障害のない人が主導の社会に、障害のある人を包み込もうとする考え方から抜け出せていないのではないかな。また、私達は、自覚しているかどうかに関わらず、多様性の中で生活しており、このことを一層自覚して「ともに生きる」ことの意味を考えたい。

○障害や難病のある人が日々の暮らしの中で感じていることに耳を傾け、「誰もが暮らしやすい豊かな社会」のあり方を考えたい。

4 参加者アンケート

回答数：155（回収率：82.0%）

第1部 基調講演

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
107 (69.0%)	44 (28.4%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.3%)

<自由意見>

○障害者の方にとって生きやすい社会とは、そうでない人にとっても生きやすい社会だという言葉に共感しました。野澤さんの話を聞くのは数回目ですが、いつも新鮮で刺激的です。

○「多様性」のあり方について、とても勉強になりました。特に終盤、学生とALSの当事者とのやりとりで学生が発言した「やっと本物の社会とつながれた感じがする」という言葉は印象に残りました。

第2部 パネルディスカッション

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
93 (60.0%)	55 (35.5%)	2 (1.3%)	2 (1.3%)	0 (0.0%)	3 (1.9%)

<自由意見>

○役所からの郵便物が難しいという言葉にはとさせられました。どうすれば皆が読みやすくわかりやすい文章を作成できるか考えていく必要があると思いました。

○自分の尺度ではなく「障害者」の方の目線に立った考え方をしていきたいと改めて思いました。日々学ばなければいけませんね。

○こうしたセミナーで盲ろう者の方はあまり取りあげられなかったと思うので良かったです。